

中堅・中小企業と環境問題

(ドイツ・アウグスブルグ市『環境ビジネスミッション』に参加して)

財団法人 大阪科学技術センター

ATAC 副会長 荒川 守正

地球温暖化防止など、環境問題が世界を取り巻く重要課題となり、地域環境に深い関わりのある製造業は、大企業を中心に温暖化対策・資源循環・汚染防止等環境重視の経営に熱心に取り組んでおり、環境経営度の尺度で企業のランク付けが行われる時世となりました。製造業で大半を占める中堅・中小企業でもその例外ではなく、環境対策を無視した経営は成り立たなくなってきました。

ATACは、環境問題に一層深く取り組むよう努めていますが、その一環として昨年10月末から約1週間、尼崎市が姉妹都市提携をしているドイツ・アウグスブルグ市に派遣された総勢12名の『環境ビジネスミッション』の団長として、4日間に9ヶ所を見学調査してきました。今後のATACの環境への取り組みに大いに参考になったと思います。

アウグスブルグ市では環境問題を最重点目標と決め、市役所・商工会議所・バイエルン州環境保護庁(わざわざアウグスブルグに移転させた)・州産業廃棄物研究所(4部長は全員ミュンヘン大学教授で、効率的に大学と連携)・環境教育センター(人材養成)・環境起業センター(インキュベーター)・ゴミ処理場・下水処理場(共に企業の分も処理)が、環境振興協会所管センター(4人)のコーディネート活動を中心に、産官学の壁を乗り越えネットワークを組んで、州の環境ビジネスの振興のために、世界中に発信し成果を挙げているのには感心しました。ドイツ企業とのビジネスも緒についたばかりで今後の展開を待たねばなりません、尼崎市も環境ビジネス振興の目標を明確にし、例えば都市ゴミや産業廃棄物に関連したビジネスの振興支援と市の環境問題の解決に役立てられればと思います。

アウグスブルグは2年前に、2000年祭を祝ったという歴史ある町ですが、歴史を大切にし伝統を守るため、絶えず革新を続けている市民の姿勢に感銘を受けました。その姿勢が次世代に美しい町並み(汚れたガラス窓は見られません)を残す努力につながっているものと思われます。

山岡孫吉氏(ヤンマーディーゼル創業者)とディーゼル氏(アウグスブルグ生まれ)によって始まった姉妹都市関係のおかげで、実に多くのことを学ぶことができ今後のATAC業務にこの体験を生かしたいと考えています。

ATACではこの2月に、大阪・奈良・岡山・和歌山のメンバーが始めて一堂に集まる予定ですが、その時、皆さんに次のキーワードを伝えたいと考えています。

- ☆明確な目標の設定
- ☆コーディネートとネットワーク
- ☆歴史の重み、貴さ
- ☆伝統と革新



美しいアウグスブルグの町並み